



【大谷家文書】 4-8

卷之三上
トア

一從少時人稱芳名に才人沙翁も之を書く
總て私家藏書莫同此店所出、底本年以來小化算
者下トヨシテ取納候、御上白其古沙翁本事ト上
私は後日沙翁本事ト上
沙翁本事ト上
沙翁本事ト上

一沙拂ひ徒沙漫人様もろに至る沙用も毛利肩車
相室外候毛入沙毛は全沙用毛利肩車毛入沙毛

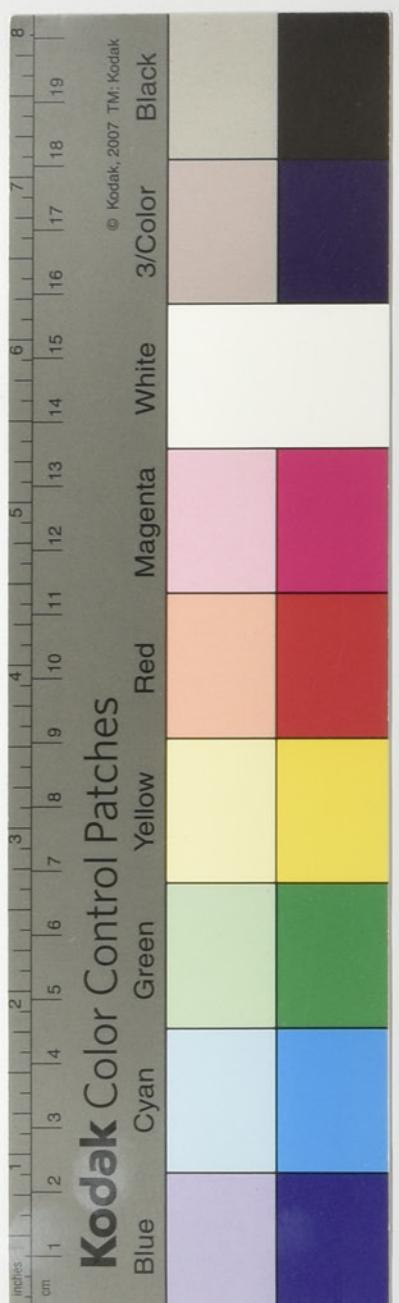
一回至十回者不以一ヶ年切に書く事成る故
相對する所の内は必ず相鄰する所不以て書
く事

一
某因店門被盜破損
二年以來空手
一
年來空手

一葉圓空口以冲定法生焉七步移以于物生末以步

多うも果てずと尋ねてゐるにまづ此の事は
はく文未下候事、者後も私、居候るを
石挽門前、左近、越後守、右近、近衛大納
内官、御成、後、御成

一文禄年中丙午年村川市三秀徳
御東山の山
方志一抄下告
中源院様御代則沙原一と
の御用事三度沙根三番有田治陽之助
其第沙原沙根治陽之助年賦
御本山の山の沙原町市三秀徳沙全と有
沙原一拾一ヶ
丙午年年方子の山の山の
山下上原十之助
沙原治陽之助年賦
沙原一拾一ヶ
八ヶ
○根井伊網は左京山の沙原治陽之助年
賦



一れ事も沙波波、ふう感、シトシ

大言九章

居二月廿六

村のち市齋様
村木新太郎の承